

病床数適正化事業による病床削減について

資料4-2

構想区域名: 岩国保健医療圏

対象医療機関名: 医療法人岩国みなみ病院

1 地域の状況	
地域の現状と課題	岩国保健医療圏における病床機能報告の中で、令和7年における必要病床数は急性期、慢性期でそれぞれ 55床、146床が過剰となっています。一方で回復期は 209床の不足となっています。岩国医療圏は他の医療圏に比べても高齢化率が高く、急性期から慢性期へ移行する途中の回復期病床の増床が課題となっています。超急性期、急性期は中核病院に集約して、他の医療機関がバックアップ体制をとるといった役割分担が必要であると言えます。
自施設の現状(変更前)	当院は急性期 60床で運営をして参りました。2014/8/6の水害で一時的に病棟閉鎖をしました。また 2021年からのコロナ患者の受け入れ(協力医療機関として)後にも、看護人員不足から病棟休床をせざるを得ませんでした。現在も医師、看護師、理学療法士など人材確保が困難な状況が続いています。手術再開の目処も立っていません。これ以上急性期病床を維持するのは現実的ではありません。
病床数削減について	削減の内容 削減の理由について
	対象の病棟・病床の概要
	新興感染症に係る協定締結医療機関の確保病床について
急性期15床を削減する ① 看護要員の継続的確保が困難であること ② 医師の継続的確保が困難であること ③ 仮に一時的に人員が充足したとしても、中長期的には不足が予想されること ④ 地域の病院機能として、地域包括ケア病床への転換も検討しており、人的資源の適正化が必要であるため	
令和7年3月 病床数 60床から 45床に削減	
新興感染症に係る協定の締結の有無について 協定あり・協定なし	
今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について 医療措置協定における確保病床は5床であるが、コロナ受け入れ医療機関として対応した時と同様に、残された 45床の中で受け入れをし、確保病床を維持していきますので、全く影響はありません。	
3 病床削減をしても入院医療の継続に支障がない理由	
理由	まずは残された 45床の中で、呼吸器疾患に特化した急性期患者を受け入れたいと考えています。また一部、地域包括ケア病床への転換を図り、回復期患者の受け入れを積極的に行うことで、地域の特性に合致した運営をしたいと思えます。ひいては病床稼働率を 15%程度向上させることで、継続的な入院診療が継続できるものと考えています。

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6		R7		計
		削減時期		削減時期	
高度急性期					
急性期			△ 15	2025/3/17	△ 15
回復期					
慢性期					
合計			△ 15		△ 15

【参考: R6病床機能報告(岩国保健医療圏の状況)】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止予定	合計
報告	①R6 (2024)現状	266	486	235	682	9	1,678
	②R7 (2025)予定	266	474	237	651	50	1,678
構想	③R7 (2025)必要数	131	419	446	505		1,501
④構想との差(R6) (①-③)		135	67	△ 211	177	9	177
⑤構想との差(R7) (②-③)		135	55	△ 209	146	50	177

病床数適正化事業による病床削減について

構想区域名：岩国保健医療圏

対象医療機関名：山口平成病院

1 地域の状況					
地域の現状と課題	岩国保健医療圏において、令和6年度病床機能報告での病床数は高度急性期、急性期と慢性期は令和7年度必要病床数に比較し、過剰であり、回復期は不足である。地域医療構想の区域における過不足の是正、地域の回復期医療の需要増に対応するべき提供体制を整える必要がある。				
2 自施設の状況					
自施設の現状(変更前)	地域において同規模の慢性期機能の医療機関が複数あり役割が重複している。当院は他院と比較し、慢性期としては入院期間が短くリハビリを求められる患者の比率が高い。待機患者も回復期機能を希望される方が多く、在宅復帰を目指す方が多数を占める。				
病床数削減について	削減の内容 削減の理由について	近隣の医療機関と重複する慢性期機能を見直し、今後需要が高まり不足が見込まれるリハビリ機能に備えた病床へ見直す			
	対象の病棟・病床の概要	慢性期病床、回復期病床ともに急性期後の在宅復帰を目指す患者を対象とした医療やリハビリを提供する医療機関であり、慢性期病床は療養病棟入院基本料Ⅰを回復期病床は回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰを算定する			
	新興感染症に係る協定締結医療機関の確保病床について	<table border="1"> <tr> <td>新興感染症に係る協定の締結の有無について</td> <td>協定あり</td> </tr> <tr> <td>今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について</td> <td>今回の病床削減により、協定に基づく確保病床(2床)の一部が削減対象となるが、代替病床の設定または再配置を検討し、協定履行に支障が出ないよう調整を進めている。確保病床を維持しながら引き続き、地域の感染症対応体制を維持する方針である。</td> </tr> </table>	新興感染症に係る協定の締結の有無について	協定あり	今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について
新興感染症に係る協定の締結の有無について	協定あり				
今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について	今回の病床削減により、協定に基づく確保病床(2床)の一部が削減対象となるが、代替病床の設定または再配置を検討し、協定履行に支障が出ないよう調整を進めている。確保病床を維持しながら引き続き、地域の感染症対応体制を維持する方針である。				
3 病床削減をしても入院医療の継続に支障がない理由					
理由	地域における病床機能の状況は慢性期が過剰、回復期が不足であることや、当院に求められる地域ニーズを踏まえ、慢性期病床(療養病棟)を削減し、一部を回復期(回復期リハビリ病棟)へ転換する見直し地域医療構想の実現に資する				

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6		R7		計
		削減時期		削減時期	
高度急性期					
急性期					
回復期			2	R7.3	2
慢性期			△ 12	R7.3	△ 12
合計			△ 10		△ 10

※慢性期12床のうち2床は回復期、1床は介護医療院に転換予定のため、補助金の支給対象外

【参考：R6病床機能報告(岩国保健医療圏の状況)】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止予定	合計
報告	①R6(2024)現状	266	486	235	682	9	1,678
	②R7(2025)予定	266	474	237	651	50	1,678
構想	③R7(2025)必要数	131	419	446	505		1,501
④構想との差(R6)(①-③)		135	67	△ 211	177	9	177
⑤構想との差(R7)(②-③)		135	55	△ 209	146	50	177

病床数適正化事業による病床削減について

構想区域名：岩国保健医療圏

対象医療機関名：岩国市立錦中央医院

1 地域の状況		
地域の現状と課題	岩国保健医療圏において、令和6年度病床機能報告での病床数は高度急性期・急性期と慢性期は令和7年度必要病床数に比較し、過剰であり、回復期は不足という状況である。人口減少・高齢化に伴う疾病構造の変化に対応するため、医療圏における病床数の過不足の是正が課題となっている。	
2 自施設の状況		
自施設の現状(変更前)	当院は、急性期53床を保有している。 しかし、令和6年4月から常勤医師2人体制で運営しており、外来患者数に大きな変更はないものの、入院患者を25人以内、救急車の受入れ停止などを実施し、医師の負担軽減に努めている。令和6年度の1日平均入院患者数は18人であった。 令和7年4月以降も常勤医師2人体制の状況である。	
病床数削減について	削減の内容 削減の理由について	急性期53床を34床削減し、回復期19床にする。 削減理由は、 ①限られたスタッフでの持続可能な医療提供体制の構築 ②市立医療機関での役割の明確化 錦中央医院においては、在宅医療を重視した医療への転換を図る。在宅医療を推進することにより、病院のベッドから自宅のベッドに移行し、在宅医療から看取りまで行えるようサポートする。
	対象の病棟・病床の概要	削減する病床は、急性期53床を34床削減し、回復期19床にする。 錦中央医院においては、自宅での療養を望む患者が自宅に戻れるよう対策を講じる。そのための在宅医療のフォローとして、訪問看護等の強化を図る。
	新興感染症に係る協定締結医療機関の確保病床について	新興感染症に係る協定の締結の有無について <p style="text-align: center;">協定あり・協定なし</p> 今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について 医療措置協定における確保病床は2床であるが、今回、削減する病床は、当該確保病床ではないので、当該協定への影響はない。
3 病床削減をしても入院医療の継続に支障がない理由		
理由	削減後の病床数(19床)に対して、令和6年度の平均入院患者数18人であった。 市立医療機関間で役割の明確化を行い、急性期や回復期の病床数について、美和病院や関係医療機関との連携を念頭に病床機能と病床数を決定し、病床数削減を行っている。圏域全体では、急性期の病床を削減し、一部回復期に転換するものであり、地域医療構想の方針に合致する。	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6		R7		計
		削減時期		削減時期	
高度急性期					
急性期			△ 53	2025/3/31	△ 53
回復期			19	2025/3/31	19
慢性期					
合計			△ 34		△ 34

【参考：R6病床機能報告(岩国保健医療圏の状況)】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止予定	合計
報告	①R6(2024)現状	266	486	235	682	9	1,678
	②R7(2025)予定	266	474	237	651	50	1,678
構想	③R7(2025)必要数	131	419	446	505		1,501
④構想との差(R6)(①-③)		135	67	△ 211	177	9	177
⑤構想との差(R7)(②-③)		135	55	△ 209	146	50	177

病床数適正化事業による病床削減について

構想区域名：岩国保健医療圏

対象医療機関名：岩国市立美和病院

1 地域の状況		
地域の現状と課題	岩国保健医療圏において、令和6年度病床機能報告での病床数は高度急性期・急性期と慢性期は令和7年度必要病床数に比較し、過剰であり、回復期は不足という状況である。人口減少・高齢化に伴う疾病構造の変化に対応するため、医療圏における病床数の過不足の是正が課題となっている。	
2 自施設の状況		
自施設の現状 (変更前)	当院は、急性期52床を保有している。 しかし、地域の人口減少や病床利用率の低迷が続いており、また、耐震診断により病院の耐震性に疑問が生じたことで移転新築を行うこととなった。 これを契機に、病院全体の人的資源をはじめとする経営資源の最適化を迫られている状況にある。	
病床数削減について	削減の内容 削減の理由について	一般病床数を52床から45床へ7床削減する。 削減理由は、 ①地域の人口減少や入院患者数の低迷による病床数の最適化 ②病院の移転新築に伴う施設の効率化 ③地域包括ケア病床の導入のため、人的資源の集約の必要
	対象の病棟・病床の概要	削減する病床は、急性期7床である。
	新興感染症に係る協定締結医療機関の確保病床について	新興感染症に係る協定の締結の有無について <p style="text-align: center;">協定あり・協定なし</p> 今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について 医療措置協定における確保病床は4床であるが、今回、削減する病床は、当該確保病床ではないので、当該協定への影響はない。
3 病床削減をしても入院医療の継続に支障がない理由		
理由	削減後の病床数(45床)に対して、昨年度までの平均入院患者数(R4:19.4人、R5:23.4人、R6:26.0人)を差し引いても余裕があるため。 削減後の病床数は、地域包括ケア病床の導入などで稼働率の向上が見込め、継続的な入院医療を今後も提供できるものとする。	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6		R7		計
		削減時期		削減時期	
高度急性期					
急性期			△ 7	7月	△ 7
回復期					
慢性期					
合計			△ 7		△ 7

【参考：R6病床機能報告(岩国保健医療圏の状況)】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止予定	合計
報告	①R6(2024)現状	266	486	235	682	9	1,678
	②R7(2025)予定	266	474	237	651	50	1,678
構想	③R7(2025)必要数	131	419	446	505		1,501
④構想との差(R6)(①-③)		135	67	△ 211	177	9	177
⑤構想との差(R7)(②-③)		135	55	△ 209	146	50	177